

平成 29 年度第 3 回
授乳室図記号に関する委員会（勉強会） 議事録案

日 時 : 平成 30 年 2 月 7 日（水） 14:00～16:00
場 所 : 経済産業省 別館 1 階 108 会議室
出 席 者 : 布田 健（国土技術政策総合研究所）、中村 祐二（ISO/TC 145 国内対策委員会委員長）、児山 啓一（ISO/TC145/SC1 国内対策委員会 主査）、定村 俊満（日本サインデザイン協会）、辻村 由佳（国際観光サービスセンター）、平野 祐子（主婦連合会）、竹島 恵子（交通エコモ財団）、村上 哲也（日本ショッピングセンター協会）、石田 尚美（子育てひろば全国連絡協議会：松田委員代理）、岡崎 租乃子（イオンリテール）、内田 将夫（コンビニズ）、老田 智美（NATS 環境デザインネットワーク）、本郷 寛子（母子の育児支援ネットワーク：長谷川委員代理）、奥 起久子（日本ラクテーション・コンサルタント協会：オブザーバ）、稲葉 信子（ラ・レーチェ・リーグ日本：オブザーバ）、久田 邦夫（GK グラフィックス：オブザーバ）、張 彦芳（4All design：オブザーバ）、村井 陸（日本規格協会：オブザーバ）、黒田 優香（日本規格協会：オブザーバ）、藤代 尚武（経済産業省）、永田 邦博（経済産業省）、山崎 朋子（日本規格協会）、佐波 真紀子（日本規格協会） 合計 23 名

1. 開会
2. 議事メモの確認（資料 2）
3. 第 2 回勉強会後の事務局の調査の紹介
 - 1) 小規模ベビーケアルームの構成（資料 3）
 - 2) 事例紹介（資料 4）
4. 新しい図記号（案）の説明と意見交換（資料 5）
5. 新しい図記号の定義内容の再確認と表示事項（名称（案））の検討（資料 6）
6. 図記号案の理解度・視認性調査の概要
7. 今後のスケジュール
8. 閉会

【資 料】

- | | |
|------|------------------------------|
| 資料 0 | 第 3 回授乳室図記号に関する委員会（勉強会） 議事次第 |
| 資料 1 | 授乳室図記号に関する委員会（勉強会） 出欠名簿 |
| 資料 2 | 第 2 回授乳室図記号勉強会の議事メモ |
| 資料 3 | 小規模ベビーケアルームの構成 |
| 資料 4 | 授乳用個室の表示例 |
| 資料 5 | 授乳室図記号（案） |

資料 6	新しい図記号の定義及び表示事項について
資料 7	理解度・視認性調査のイメージ
参考資料	長谷川委員提出の資料

【議事メモ】

■初めに、事務局より資料及び議事の確認をおこなった。

■議題2～3は、事務局より調査状況を紹介した。

- ・議題2： 議事メモの確認（資料2）

事務局より、第2回勉強会の議事メモの紹介を行った。時間の都合上、今後の議題に関係のある箇所を重点的に確認した。

《コメント》

・すべてをピクトグラムであらわさなくてもよいのではないか、というコメントが議事録で出てきたが、自分自身が海外へ行った時など、英語であればなんとなく意図していることがわかるが、そうでないと言語で書いてあっても全く理解できない。どこまでをピクトで表すとわかりやすいのか、検討が必要になると思われる。

- ・議題3： 第2回勉強会後の事務局の調査の紹介

- 1) 小規模ベビーケアルームの構成（資料3）
- 2) 事例紹介（資料4）

事務局より、調査結果の資料3及び資料4を紹介した。

資料3では、小規模ベビーケアルームの構成について、整理を行った。これは、前回の勉強会で、例示が立派過ぎるとの指摘があったためである。

資料4では、実際のベビーケアルームの表示例を紹介した。入り口に見取り図を配置し、中の設備及び女性専用エリアを表すとともに、実際に男性入室禁止のエリアの前では、「女性専用」「Ladies Only」など、文字による表示もしている。

事務局としては、女性専用エリアのないベビーケアルームもあるため、個室を表す図記号を考える方が、汎用性があるのではないか、という提案を行った。

《コメント》

・ベビーケアルームの図記号とセットで使うのか、それとも単独（例えば誘導サイン）で使うことを想定しているか。

→基本的には、ベビーケアルームの図記号とセットで使うことを想定している。ただし、一概に決めるのは難しいので、勉強会での意見によっては、誘導サインとして使われることも考えられる。

→施設によるので、どちらのケースでも使えるようにする方が、汎用性があるといえる。

→施設の入り口で細かく表示しても、他にも表示しなければいけないものが多いので、かえ

って見つらくなってしまう。現実を使う場面を想定して考えていただきたい。→→ 前回の勉強会でもあったとおり、国交省の設計標準に合わせて細かさを決めていけばよいのでは。

・本郷委員代理より、参考資料の説明をいただいた。

当事者を対象にアンケートを実施した。当事者の要望としては、鍵のかかる個室、家族で入れる個室、簡単に仕切る程度の授乳ゾーンでも構わない、など、多種多様であることが確認できた。ベビーケアルームのマークは男女兼用、その補助マークとして男性が入ってほしくない、女性が安心して授乳できるということを表せることが重要。「個室がほしい」というだけでなく、「女性が安心して」ということは無視できない。家族ルームの表示はまた別でよいのではないかと感じた。国際シンボルマークに固執するわけではないが、個室にもゾーンにも使える図記号が求められているのではないかと感じた。

《コメント》

・国際マークは、母乳育児をしている、ということを表すもので、搾乳する場所にも使われたり、難民キャンプでも使われている。アメリカの Mothering という雑誌で公募して選ばれた。使い方は決められているわけではない。認知度が高いので、今回アンケートで使用した。当事者 1300 人に答えていただいた。

意味は、元々は international breastfeeding mark といって、母乳で育てていることを表している。

母乳「推進」という意味はない。

■議題 4～5 については、委員より資料の説明、事務局からの案の提示、及び意見交換を行った。

・議題 4： 新しい図記号（案）の説明と意見交換（資料 5）

事務局より、定村委員よりいただいた図記号案を、「鍵有り無し」「女性、性別なし、家族」「個室／エリア」で整理したものを説明した。

引き続き、定村委員より、資料 5 の図記号について説明があった。サインデザイン協会の案内用図記号を作るチームで、JIS スタイルで作成をした。今回の前提は、ベビーケアルームは学習を前提で作られているが、その中に何があるのかということ解釈してア～カまで作成した。ア～ウは個室もエリアも表せるもの、エ～カは区切られた空間を表している。赤ん坊の表現はイ及びウ、性別なしはイ、ウ、オ、カ、家族はエで表している。

《コメント》

・図記号について希望するのは、お客様が分かりやすいかどうかということ。お客様が分からないと説明が必要になり、ピクトにする意味がなくなってしまう。現在施設では、なるべくサインの数を減らす方向にしている。現在、トイレの表示の場合は、建物入口等ではトイレがあることしか分からず、その前まで行って、初めて分散の機能（車椅子、おむつ交換台等）があることが分かるようになっている。まずはベビーケアルームがあることを表示して、そこまで行ってからその内容がわかるという形でよいのではないかと感じた。また、図記号案の鍵マ

ークが、コインロッカーのマークに似ているので、お客様が混乱する可能性がある。個室を表す囲いが、どういう意味か分からない可能性がある。ぱっと見て分かることが大事で、施設内の他の表示とダブらないようにしたい。

→ 図記号そのものの理解度、視認性調査は、ウェブ調査で実施を予定している。

・図記号は数を少なくした方がよい。性別なしはひつようと割り切って、母乳を与える女性に限定してはどうか。あとは施設で工夫して使えばよいのではないか。

・議題5： 新しい図記号の定義内容の再確認と表示事項（名称（案））の検討（資料6）事務局より、資料6について説明を行った。内容は、前回勉強会で特段意見をいただいていたので変更なく、表示事項を「授乳用個室」、機能を「安心して授乳できる設備を表示」としている。

《コメント》

・表示事項では、あえて「個室」といわなくてよいのではないか。

・一番重要なのは、母乳で授乳しているときに男性が入ってこない、ということなので、個室にこだわる必要はないのではないか。

・母乳の女性への配慮はもちろん必要だが、人工乳の女性や男性で授乳しなければならない人のことも考え、個室を表す方がよいのではないか。

・おむつ交換はトイレで、授乳だけの施設のところもある。その場合、ベビーケアルームがないので、JIS の図記号は使えない。その場合は誘導にも新しい図記号を使わなければならないので、細かい図柄では表すのは難しい。そのため、定義で男性・女性などは決めない方がよい。

・「安心」がキーワード。何をもって「安心」かは、表示者が場所に応じて考えて使用する。JIS ではあまり細かいところまで規定すると、汎用性の高いピクトにならない。

・JIS に採用されたベビーケアルームの図記号が男女兼用で、男性も入りやすい設備であることをもっと周知する必要がある。それに加えて、女性が安心できるところがあることを表示できれば。「授乳用プライベートスペース」「授乳用エリア」等にしてはどうか。JIS の定義に「女性」を入れてはどうか。

・図は性別なしにしておいて、「女性専用エリア」「男性入室禁止」と書く、という使い方もある。その方が、汎用性がある。

・性別なしの図は、男性を表しているように見える。

・個室を表すか、エリアを表すかについては、エリアで男性も女性も入れるというのは、安心できない。ミニマムな授乳室は男性が入れないと困るという現状はあるが、それ以外の授乳室／エリアは「女性」を定義に入れた方が分かりやすいのではないか。

・施設で使うとき、ピクトはなるべく少ない方がよい。ベビーケアルーム図記号を補完するのではなく、全く別の図記号を作るとすると、施設で必ず両方提示しなければならないので、図記号は増える一方となる。今回作成する図記号がどうあるべきか、もう少し検討が必要ではないか。

・安全の内容を表示者の判断に任せてしまうと、それぞれバラバラなので統一的に使用でき

ない。

- ・会社によっては、マニュアルの中でピクトに併記する文字表記などを決めているので、あまり細かく決めない方がよい。

- ・誤解がないようにピクトを作るのが理想的。

- ・施設の形態もいろいろなので、逆に女性に限定したピクトにした方が、混乱が少ないのではないか。

- ・ミニマムタイプの授乳室にも使えるピクトを作らなければならないとする。その場合、現在のベビーケアルームの図記号の哺乳瓶とおむつ交換台から、おむつ交換台を除いたものだ、ということが果たして伝わるかどうか疑問。

- ・JISとしての定義をどこまで深めるか。

- 「安心」とは（補完図記号）

- 「女性」を入れるかどうか（補完図記号）

- ミニマムな授乳室ピクトを作るかどうか（別図記号）

- ・案としては、新図記号はエリアにも個室にも使えるもので、「母乳」は定義に入れず、「女性」を入れ、家族で入れる個室で表示する場合は「ご家族で入れます」と記載することかどうか。

- ・デザインが、乳幼児用設備の図記号と似ているものは混乱するのでよくない。

・議題6： 図記号案の理解度・視認性調査の概要

事務局より、予定している図記号案の理解度・視認性調査の概要について、資料7を基に説明があった。今回、候補として決まった図記号が、何に見えるかを自由記述で書いてもらう問いと、サイズを小さくしてその形が分かるかどうかを、3種類程度に絞って調査することを考えている。ただし、定義は一つに決めた上で、候補の図記号案を絞る。

この試験方法は、ISO9186-1（図記号—試験方法—第一部：わかりやすさの試験方法）に沿っており、あらかじめ何が正解か不正解か決めておいて、それに応じて点数をつけて結果を検討することになる。そのため、先に定義を決めておく必要がある。

・議題7：今後のスケジュール

事務局より、元々のスケジュールと、訂正スケジュールの説明があった。

もともとは、今回の勉強会をもって新しい図記号の定義とデザイン案を決定し、年度内（2018年3月末まで）に視認性、理解度調査を実施した上で、来年度のJIS Z8210（案内用図記号）の本委員会で、JIS本体への採用を決定するスケジュールであった。しかし、定義の決定に至ることができなかったため、メールベースで定義の検討を続け、必要があれば来年度初めに対面で勉強会を実施し、4月～5月のタイミングでデザイン案の視認性・理解度調査を実施することとする。

今年度内の作業として、委員の皆様へ事務局より、定義の考え方等について具体的な質問を送付するので、それに対してメールで回答をいただくようするため、事務局より協力を依頼した。

以上